

保健体育科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
(知識) 各領域の特性や魅力を理解したり、運動やスポーツの価値等を理解したりできるようにする。 (技能) 各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうとともに基本的な技能や動きを身に付けさせる。	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるようにするとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えられるようにする。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	ア 各領域において、動きの差や基本的な動きの習得に個人差が大きいことが課題である。 イ 課題の合理的な解決に向けて、運動の取り組み方を工夫する力や自己の考えたことを他者に伝えたり、発表したりすることが課題である。	ア 各領域に必要な基本的な動きの習得に必要な力(自分の体を自分でコントロールする力、リズム体操等)を補強・準備運動に取り入れていく。 イ 学習カードに本時の目標だけでなく、解決に必要な技能のポイントや他者に伝えるときのポイント等を図や解説で示していく。授業内では見本動画も示したり、自分の動きを客観的に見られるようタブレット端末を活用する。	毎時間の授業	
第2学年	ア 各領域に必要な基本的な動きの習得に個人差が大きいことが課題である。 イ 課題の合理的な解決に向けて、運動の取り組み方を工夫する力や自己の考えたことを他者に伝えたり、発表したりすることが課題である。	ア 個別で学習できる時間を設け、生徒自らが選択し、自分のペースに合った技能を習得できるようにする。また、自分の技能に合った目標を立て達成できるようにしていく。 イ 学習カードに解決に必要な技能のポイントや練習方法を明記することや他者に伝えるときのポイント等を図や解説で示していく。ペアワーク等も取り入れ他者に伝えあう環境をつくる。	毎時間の授業	
第3学年	ア 各領域に必要な動きや技能の習得に個人差が大きいことが課題である。 イ 課題の合理的な解決に向けて、運動の取り組み方を工夫する力や自己の考えたことを他者に伝えたり、発表したりすることが課題である。	ア 個別最適な学びと協働的な学びを両立し、自分のペースや課題に合わせて基本技能を習得する時間の設定と習得した技能を生かして協働的な学びに生かすことで技能の習得と深い学びにつなげていく。 イ 学習カードに本時の目標だけでなく、解決に必要な技能のポイントや他者に伝えるときのポイント等を図や解説で示していく。	毎時間の授業	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年 タブレット端末を活用し、自分やチーム、仲間の動きを確認したり、見本の動画を見たりすることで、自分で練習を工夫したり、チームや仲間自分の考えたことを伝え、課題解決につなげていく。	全学年 単元評価計画、本時の目標、授業の流れを確認することで単元や本時の見通しを持たせ、授業終わりには本時の振り返りを全体や個人(学習カード)で行う。技能や記録の向上が分かるようにすることやペアやグループで学習を進めていくことで互いに技能を向上させていく楽しさを味わわせ学びに向かう力を育む。